

60周年記念事業（折鶴）を設定した経緯について

千葉県青少年相談員60周年記念事業
実行委員長 原 靖 明

令和元年度以降、自然災害や新型コロナウイルス感染症の影響で、県内各地で例年実施している活動ができない状況となり、多くの青少年健全育成の機会を失うことになりました。

このような状況下ではあるものの、子ども達が未来に希望を持てるような体験活動の機会を創出するため、令和5年度に60周年を迎えることと併せ、本事業を計画しました。

各市町村連絡協議会では、事業を計画し準備したものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、規模縮小や中止になってしまったとのこと。また県内でも、地域ごとに青少年相談員主催事業の開催可否の判断は異なっており、集合型を企画した場合、参加できない市町村も出てくる可能性もあります。

本来なら、50周年記念事業の様な集合型事業（50周年はレッツダンス）が望ましいとは思いますが、このように開催が見通せない中での企画、発案、審議、実行していくのは難しいと判断し、60周年記念事業は式典、イベント、記念誌の3つ全てを新型コロナウイルス感染症という困難な状況でも協力して活動した証として、70、80周年以降の後輩たちにわかるように、形にして残したいとの事で、千葉県中の子ども達に鶴を折ってもらい、青少年相談員が一羽ずつ糸に通し、その想いをつなげるという趣旨の「折鶴」をイベント部会から提案していただき、スタートしております。

完成した鶴は、「千葉県中の子ども達の想い」として、60周年記念式典会場にて青少年相談員に披露します。その後、各地区各市町村で活用方法をご検討いただければと思います。千葉県内の「青少年」と「青少年相談員」が、形は違えども、同じ想いで行動します。作成題材は市町村ごとでも構いませんし、地区で一つのものでも構わないと考えています。

展示については、県立施設での展示を調整しています。市町村連絡協議会では、公民館事業等の位置付けなら展示等もさほど困難ではないと考えます。54市町村全体で同じ作業をし、それぞれの想いを形に仕上げれば、必ずしも、その場に集まらなくても想いを一つにして行動することで、目的は十分達成できるのではないかと思います。

この様な観点から60周年記念事業は「動」では無く「静」対面で触れ合い行動する事が難しい今だからこそ、子供たちの心、その想いを私たち青少年相談員がつないでいく事に意味があると思っております。

青少年相談員一人一人のご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。